

校訓
平和・自律・創造

≡ 中 ≡
学校だより

令和6年10月24日発行
つるぎ町立半田中学校
校長 手塚 博也
第 8 号



平凡を非凡に努めることの大切さ ～ 簡単なことを、極めていくこと ～

【10月集会（校長講話より）】

サッカーのW杯では、日本人サポーターの行動が注目された、忘れられない出来事がありました。2014年に開催されたブラジル大会で、日本は初戦でコートジボワールに、惜しくも「1-2」で敗れましたが、その後のサポーターの行動が全世界のネットやメディアで絶賛されたのです。彼らは、客席を日本代表チームと同じ「サムライブルー」に染めるために青いビニール袋を使用していました。試合後、サポーターはそのビニール袋を活用し、ゴミを拾い、後片付けをしてからスタジアムを後にしました。この行為が絶賛されることとなりました。

この活動は特別のものではなく、日本が初めてW杯に出場したフランス大会から行ってきた「当たり前のこと」だったのです。しかし、この当たり前のことができないのが現実であり、だからこそ絶賛されたのです。では、なぜ日本人サポーターは「当たり前」にできるのでしょうか。それは、自分のことよりも周囲の人のことを優先して考えることができるからです。そこには、「感謝」や「思いやり」といった気持ちが強く含まれています。

日本を美しくする会相談役の鍵山秀三郎さんは、「凡事徹底」という言葉で「平凡を非凡に努めること」の大切さを伝えていらっしゃいます。鍵山さんは、カー用品店イエローハットの創業者で、一代で会社を1部上場企業にまで育て上げました。「掃除の神様」とも言われ、トイレ掃除が自分や周囲の意識を変え、会社や社会をも変えるとの信念を持って経営に取り組んだことで有名です。「当たり前」のことを続けることは、簡単そうに見えて難しく、自分のことを優先してしまうと、ゴミを拾わなかったり、靴をそろえたりできないことがあります。「for me（自分のために）」ではなく「for you（誰かのために）」の気持ちをもって生活することが、集団生活では何よりも大切なのです。

本校の校訓「平和・自立・創造」も「凡事徹底」につながる「当たり前」のことですが、そこには、相手への「感謝」や「思いやり」の気持ちが込められています。

「for me」ではなく「for you」の気持ちをもって、「平和（他人を思いやり・自分を大切に）・自立（正しい判断と行動）・創造（互いの違いを認め、よりよい学校に社会に）」にしっかり努めてください。「平和・自立・創造」を大切にすることが、きっと皆さんの成長につながるはずです。

校訓の意味を考え、しっかりと心がけてほしいと願っています。



【県中新人大会】

◇陸上競技100m 個人 第2位

【西部ブロック新人大会】

◇サッカー 一回戦 3-0 江原・美馬
(準優勝) 準決勝 1-0 三好・三野
決勝 0-2 池田

◇バレーボール女子 予選リーグ 2-0 穴吹・岩倉
(準優勝) 2-0 貞光
2-0 脇町
準決勝 2-1 池田
決勝 0-2 三好・三加茂

◇軟式野球 一回戦 4-10 江原・岩倉

◇剣道男子団体 決勝(棄権敗退) 山城

◇剣道女子個人 個人 第3位

【美馬地区駅伝競走大会】

◇男子の部 第3位

◇男子の部区間 4区：区間賞、5区：第2位
1・2・6区：第3位